

東寺〔九条大宮にあり〕河海抄云、遷都のはじめ、東西の大宮に玄蕃寮を置、弘仁以来東鴻臚を東寺とし、弘法大師に賜ふ。東宝記に云、大師東寺を給て即真言密教の場とし、結構の堂舎造立の仏像年中行事僧衆の威儀、皆ことごとく唐の青龍寺の風を移すとぞ。抑当山は京師の古寺なれば、伝来ひ什物に鴻臚館より以前の書、四字年号ある筆物、一千年前の書、代々の大政官符、古哲の筆跡、大師の書等宝庫五箇に余れり、故に例歳虫払もあらず、時に臨みて少々づ、出しける年もあり、京師古刹の頭、靈宝の長者たるべし。坊中宝輪院の林泉奇なり、泉水の中に沸泉三所あり、書院の画は海北友雪の筆九老の図なり。都て当山坊中に名画名筆多し。林泉も亦多くして、所々に沸泉の清水ありて樹木を育する事他境に勝るゝとぞしられける。